

ネパールのテクノロジーとメイカーたち—募金企画

2014 年、ネパールの Art&Tech カンファレンスに参加した。僕はシンガポールに重罪
していて、アジアの Maker ムーブメントについていくつか[連載](#)をしている。普段書いて
いるのはハイテクノロジーだったり変わった形のイノベーションだったり、何かしら新しい
モノだ。ネパールのカンファレンスはすごく印象的で今も鮮明におぼえているのだけど、
今書いているものにはあてはまらなくて、何かのアウトプットにはつなげられずにい
た。

4 月 25 日、ネパールのカトマンズ近郊で大きな地震があった。Facebook は、地震後
すぐに安否確認の機能を立ち上げた。僕はネパールに、18 人の Facebook フレンドが
いる。幸い全員が無事だったようだ。最後の人が「無事だ」と返してくれたのは 8 時間
前の 5 月 3 日、地震から一週間近くがたってからだ。僕が最後に、1 週間もネットから
遠ざかったのはいつのことなのか、もう思い出せない。彼らが早く、元の生活に戻れ、
過去を悼む日々が過ぎることを望む。



The screenshot shows the Facebook interface for the "Nepal Earthquake" event page. The page header includes the Facebook logo, a search bar, and the user's profile (高須 正和). The main content area features a green warning icon and the text "Nepal Earthquake" and "Facebook 災害時情報センター". Below this, there is a message in Japanese asking if friends in the affected area are safe and providing instructions on how to report their status. A list of friends is shown, each with a profile picture, name, and status. The friends listed are Sakar Pudasaini, Dipeshwor Man Shrestha, Pavitra Gautam, and Sharareh Bajracharya. Each friend's status is "Safe" (無事) and is marked with a green checkmark. To the right of the list, there is a map of Nepal showing the earthquake's location and a text box from the United States Geological Survey reporting a magnitude 7.8 earthquake. At the bottom right, there is a section for emergency contact information, including a phone number (+977-4228435).

友だち、スポット等を検索

高須 正和 ホーム 20+

お知らせ

Nepal Earthquake
Facebook 災害時情報センター

影響を受けた地域にいる友達を確認して、友達が無事であることを知っている場合はそれを報告することができます。

影響を受けた地域にいますか？
友達に知らせる

この地域にいる友達(18人) + 友達を検索

Sakar Pudasaini
無事が報告されました · 7日前
コメントする · 11 ✓ 無事

Dipeshwor Man Shrestha
Asheshwor Man Shrestha さんによって無事が報告されました · 7日前
コメントする · 2 ✓ 無事

Pavitra Gautam
無事が報告されました · 6日前
コメントする · 8 ✓ 無事

Sharareh Bajracharya
Imke Fehrmann さんによって無事が報告されました · 7日前
コメントする · 8 ✓ 無事

この災害に関する情報

The United States Geological Survey reported that a magnitude 7.8 earthquake occurred approximately 35 kilometers east of Lamjung, Nepal. Tremors were felt across the region.

緊急通報
+977-4228435

Facebook のネパール地震賛否確認ページ

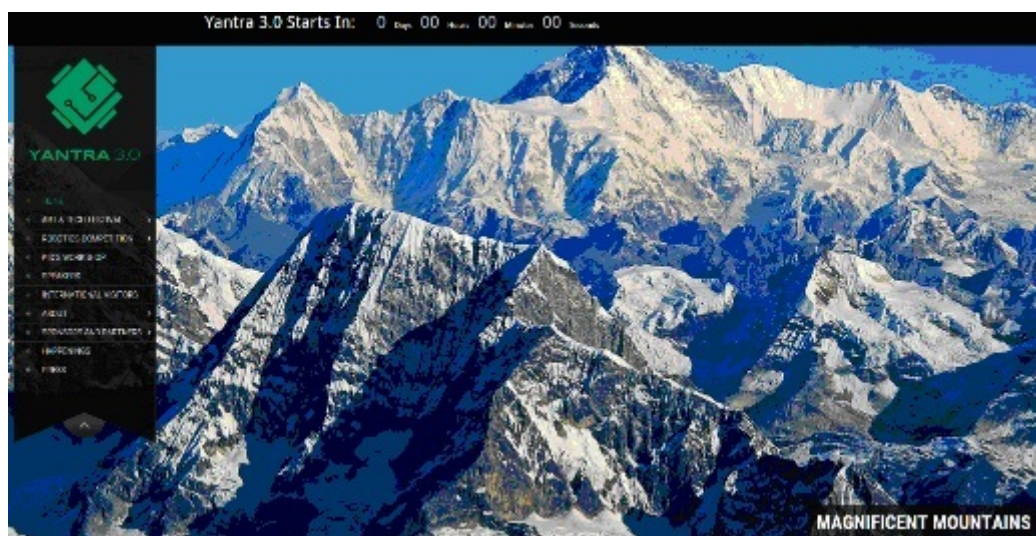
ネパールのテクノロジー

ネパールは、ヒマラヤがあるため有名な国で、ニュース番組などでもよく見るが、登山が趣味の人でもなければ、実際に行く機会はないとおもう。「チベットとかパキスタンとかインドあたり」など、場所もちゃんと答えられないことが多い。

中国の深圳で DIY の世界的なイベント「MakerFaire」に参加したときに、Sakar というすごく陽気なネパール人と友達になった。上背も厚みもある南国的な体格の人で、工場の機械の音がマシンビートの的に格好よくて、一緒に工場内で踊り出したのを覚えている。

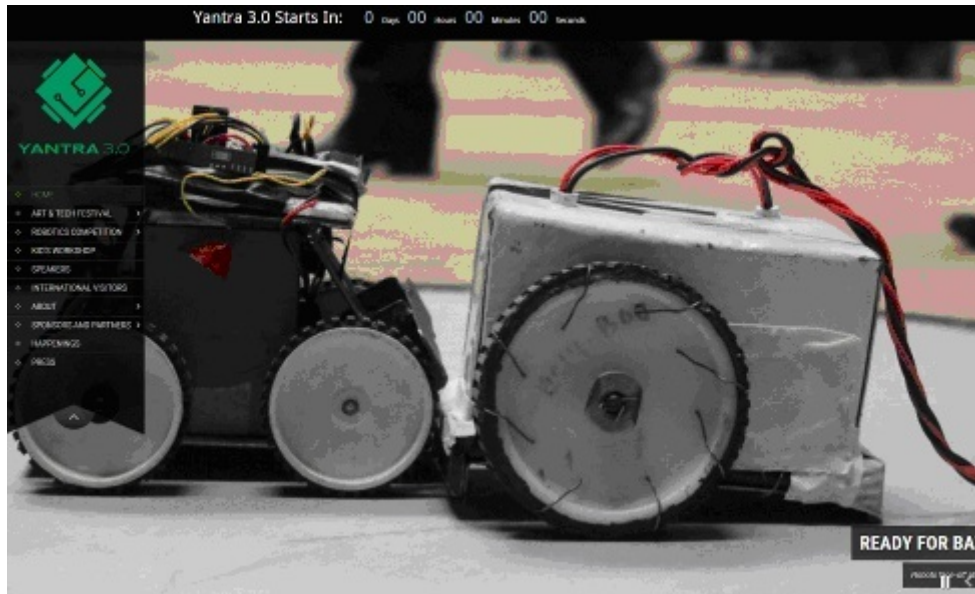
彼は [Karkhana](#) という IT を使った教育を行っている集団の代表で、その後、僕たちが運営しているシンガポールのイベントでもブースを出してくれ、仲良くなった。

ある日彼からメールが届いた。ネパールで最初のアート&テクノロジーのフェアをやるという。深圳で僕がプレゼンしたチームラボの作品について、ネパールのクリエイターたちにぜひ紹介してほしいというメールだった。



Yantra3.0 のサイト

[リンク先](#)を見ると、壮麗なヒマラヤの風景のもと、「ガイコクジンが考える“ネパールっぽくてエキゾチックだね”と思うものしかネパールのアーティストが作れない状況を変えたい」「1000 年以上前の石と鉄でできたネパールのアートに、テクノロジーを加えるとどういふものができるか見たい」など、アツいメッセージが並んでいる。かと思うと、どうみても“ヘボコン”クオリティのロボットに切り替わったりする。



ロボット相撲の様子。なんでこの形になったんだろう

交通費諸費用など全てこちらから持ち出しで、しかもネパールから東京に直行しないと間に合わない日程だったとはいえ、行くことにした。

学生時代は登山サークルだったのでヒマラヤにあこがれはあったし、ネパールのテクノロジーイベントの記事はウェブでほとんど見つからない。多少苦勞しても行きたくなった。

ネパール初のアート&テクノロジーのフェア Yantra3.0 に行ってきた

Yantra というのは、ギャラリー「Nepal Art Council」で行われる DIY イベントのような作品展示と、ロボットコンテストを組み合わせた、1 週間のイベントだ。Yantra3.0 は 2014 年 11 月 8～15 日に開催された。

僕は主に Art Tech Exhibition イベントのスピーカーとして呼ばれた。会場ではポータブルな「マニ車」を作るワークショップなどが行われていた。

マニ車は、シリンダー状の物体の中にとっても長いお経が入っていて、車を回すことでその長いお経を唱えたことになるツールだ。1 回回すと 1 回経を唱えたことになるという。寺に備え付けてあるような大きいものも小さいものもあり、チベット仏教ではあらゆるところにある。各人の家にもあったりする。土産物みたいな小さいモノでも中にきちんとお経を入れている。

このワークショップでは、250CC のジュース缶のをグルグル回るようにして、周囲を各自がデザインし、オリジナルのマニ車を作ることができる。



ワークショップで子供が作ったマニ車が並ぶ。中央の女性がこのワークショップを計画したアーティスト



巨大なマニ車

この巨大なマニ車もアート。回すと、おそらく軸の中にロータリーエンコーダが入っていて、そばに置いてあるプロジェクタからブッダのストーリー動画が流れる。シンプルなインターフェースなのだが、巨大なマニ車のインパクトが大きいし、かつ本気で作っているのを見る方も力が入る。



宗教画と QR コード

宗教画のビンディー（額にある第3の目）に QR コードが入っていて、スマートフォンで撮影するとブッダのストーリー動画が流れる。ネパールの回線は安定していないので、ローカルにアクセスポイントとサーバをたてていた。

展示の大半がこういうチベット仏教がらみのテクノロジーアート作品で、こういうのは信心がないと説得力が生まれない。いつも見ているような作品とは全く違うように思えた。



ネパールのインタラクティブデザイナーが作った、光る服。スマホでコントロールして色を変えることができる



ぼくのプレゼン。未来の遊園地の話



Tom Igoe 氏の講演

もう一人の国際ゲストはマイコンボード「Arduino」プロジェクトの共同創業者 Tom Igoe 氏。現在はニューヨーク大学の先生をしながら、Arduino の普及活動をしている。今回西欧から来たゲストは彼だけ。ほかに、日本(というかシンガポール)から僕、深圳のハードウェア企業 Seeedstudio からブライアン。ゲスト同士はずっと一緒にいたのでとても仲良くなった。

ロボットコンテスト

ロボットコンテストはネパール軍のトレーニング施設である体育館で行われた。64 の学校が参加し、僕たちが行ったのは決勝戦で、数時間ですべての戦いが終わった。



ライン通りにロボットを動かすライトレーサーの勝負



フラッグを取り合う

もちろん、レベルはお世辞にも高いとはいえない。ライトレーサーは、ひょっとして決勝ではじめて、光沢の上を走ったのかもしれない。しょっちゅう道を外していたし、フラッグを取り合うロボットは自動でなくてリモコン使用。参加者は高校生と聞いていたけど、もう少し上の年齢層もいたように見えた。いずれにせよ「ハイレベル」ではない。でも、多くの人を楽しんでコンテストに参加して、観客も集まっていたし、作者や観客の熱気はいつものロボコンと変わらない。僕もとてもエキサイトできた。

ネパール地震への支援を



僕を出迎えてくれた、イベント見学の学生たち

テクノロジー的にどう取り上げていいかわからなくて死蔵していたエピソードを原稿にしたのは、ネパール地震への支援が目的だ。Sakar ほか、僕が Facebook でつながっている 18 人は無事が確認されたけど、まだいろいろと大変なはずで、日本のメディアに記事が載ったら喜んでくれるだろう。

以下に、今回の災害支援の窓口を列挙する。ぼくも今回の原稿料を送るつもりだ。

- [赤十字 2015 年ネパール地震救援金](#)
- [ヤフー ネパール 地震被害緊急支援募金](#)

6 月 19～21 日のメイカー向けイベント「Maker Faire 深圳」で、また彼らに会えるかはまだ聞いていない。会えたらいいなあと思っている。そして今年また、yantra が行われることを楽しみにしている。

高須正和

無駄に元気な、チームラボ **Make** 部の発起人。チームラボ／ニコニコ学会 β ／ニコニコ技術部などで活動。日本の **DIY** カルチャーを海外に伝える『ニコ技輸出プロジェクト』を実施。日本と世界の **Maker** ムーブメントをつなげることに興味がある。現在シンガポール在住。**MakerFaire** 深圳(中国)、**Mini MakerFaire** シンガポールの実行委員。[連載](#)など